

はづ

No.26

羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会

平成5年10月25日



例年になく

冷たかった夏

まだ稲穂の青い

あぜみち

夏休みの思い出を

胸一杯に始業式

長かった夏休みの

できごとを

思いつきり

おしゃべり

楽しい

帰り道

地域社会づくり事業

みつけよう! はづのすばらしさ

ウォッチング はづ '93

昨年度実施した「ふるさとの壁画づくり」は、大きな反響を呼びました。壁画に描かれた、はづの歴史・文化・産業など、自分たちの住むまちを自分の足で歩き、空から観察してみませんか!

熱気球
体験

12月5日(日)

歩いてみよう
はづのまち

～地区回覧「お知らせ」をおみのがしなく～

平成5年度 地区交流懇談会

自らの手によるふれあい活動を考える

—住みよい羽津の明日をめざして—

八月十日、羽津地区市民センターにおいて、市側より加藤市長、加藤助役、市民部長、環境部長等関係部課長、地区側から各町自治会長、関係団体役員、地域づくり推進員など多くの方々に出席をいただき、地区交流懇談会が開催されました。

今年度は、「住みよいまちづくりのために」と「地域の活性化をめざして」というテーマで、日頃当地区において直面する問題について提言、意見発表がありました。

(1)垂坂公園の整備充実について
羽津の西端にある垂坂山が公園となり、子供達が自由に遊ぶ光景に接し、またジョギングコースとして公園を利用するなど、公園が地域住民にとって、より広く活用されることを望んでいます。しかしながら ①公園へ至る道路、歩道の整備 ②トイレ、ベンチが不足している ③落雷時に避難がでる施設が必要である。など、まだまだ問題があると思います。

本来、公園とは住民の憩いの場として、またふれあいの場としての役割がなされてこそ意義があるもので、家族づれが一日ゆっくりとくつろげるような公園に整備されることを願います。

(2)ペットの飼い方の指導強化を望む。
昨今のペットブームにより、当

地区においても多くの家庭で、犬・猫を飼育しています。とくに犬の散歩については、早朝、夕方に行われ、時には公園で放したり、糞の処理袋は持っていないで使用されず、犬の糞が町のいたる所で見られます。このようなことは不快な思いをするだけでなく、砂遊びをする子供の衛生面にも問題があります。これは飼主のモラルによるところが大きいと思いますので、行政側からの指導強化をお願いしたい。

(3)地域づくり活性化のために
平成四年度事業の壁画「志氏の大地に生きる」の製作には、美しいまちづくり、町を愛する心をめぐくみ「クリーンはづ」につながりようとして、たくさんの住民が一体となり完成しました。

本年度においては、「角度をかえてもう一度羽津を見直そう」という企画を考えています。壁画づくりに感じた住民の熱意と連帯感をもって成功させたいと願っています。皆さんのご協力をお願いします。

また、昨年度の地区事業についてのアンケートにより、多くの問題を指摘されましたが、現状における団体役員の不足と、マンネリ化によるものと思われまます。これを打破するために、地区社協を事業部制にし、地域の活性化を図りたいと考えます。それについては今年度を準備年とし、来年度より発足を予定しています。



私の昭和

崑寿・音楽とともに

羽津山町 安藤清軌

昭和を記録するには、あまりにも波乱万丈の苦しいドラマの連続でありました。そのすべてを忘却の彼方へ飛ばし、ひたすら長い人生の中における楽しさのみを見出し、一日一日、感謝と幸福の時に刻みながら、その楽しさの一頁をビツクアップしました。

私は健康のため、長年テニスで体を鍛え、内からはカラオケで内臓の強化に心がけています。

幸いにして昭和十年、私十代の後半に応募するまで音楽に熱狂しYMC(四日市洋楽同好会)を結成、軍需工場慰問をはじめ、劇場での演奏、そして小遣いが無くなると夜の歓楽街で、流しも再三やりました。私が歌い手でした。その後、仲間達はプロに転向した者もいました。

昭和十二年、満十九才のとき支那事変に際し、昭和十五年帰還。そして、結婚。翌昭和十六年大東亜戦争に再度の召集、幾多の波乱を乗り越えて、終戦となりました。

昭和二十年、戦後いち早く始めた陶器事業の傍ら、少年時代の道楽の再燃、アマチュアながら、幾度となく四日市文化会館にて、リサイタルを開きました。

昭和六十年、YMC五十年記念演奏会をもって音楽活動にピリオドを打ちましたが、その後平成四年、文化会館にて主催ビッグフェスティバルにどうしても、と言うことで「港音頭」を万古焼の半天を着て歌いました。

つづればきりのない事ですが、今昭和をふり返り十代のかわいい顔をした私が浮かんできます。そんなお陰で七十七才の今、毎週二回羽津山町婦人会の皆様と共にカラオケ教室を開き、楽しんでいますが、何よりの生きがいと喜んでいます。

サッカー フェスティバル

羽津小六年 助田拓也

7月31日に霞ヶ浦サッカー場で羽津スポーツ少年団主催「第9回羽津サッカーフェスティバル」が行われました。

6年生チームは岐阜県や上野市などのチームを招待し、8チームが参加しトーナメント形式で試合を行いました。

開会式では、参加選手を代表して「選手せんせい」をしましたが、このとき緊張してまじがえそだったけど、スムーズに最後まで言えたので気分がよかったです。

一回戦の相手は日進チームと戦い二対一で勝ち、準



決勝戦は朝鮮チームと戦いました。負けると思ったけど二対二でPK戦の末、三対二で勝ち決勝に進みました。

決勝戦の相手は常磐西チームで、前回戦ったときには八対〇だったので、また今度もぼろ負けかと思いましたが、全員がんばり、接戦の末おしくも二対一で負けました。でもみんながんばって準備したので、とても満足でした。

広島平和 使節団

羽津中二年 森 圭司

この学習旅行に行ききつかけは、学校で先生に、「せっかくだから行ってみたら」と声をかけられたからです。

ぼくは「記念式典に出させてもらえるから」という単純な理由で行こうかなと思いましたが、今思えば、本当に行けて良かったなあと思います。

一泊二日の学習旅行はスケジュールがきつくて、少し疲れたけれど、その分いろいろな体験をさせてもらいました。

体験談を聞いたり、資料館の見学、そしてなんといっても式典への参加。それらを終えて、どれだけ平和が大切なのかを、よく考えさせられました。

世の中が平和になるには、いろいろ考えなければならぬと思います。

楽しかった 洋上教室

羽津北小六年 一海智博

3泊4日の洋上教室(南九州)のことです。夏休みに入ってからずっと楽しみにしていた洋上教室が、8月24日から始まりました。

一日目は、午後から文化会館へ行き、そこからバスで大阪南港に行きました。途中ですごい雨が降ってきたけど、ちょっとたつたらやみました。雨は、その日だけしか降りませんでした。船に乗り、夕食のあと、自由行動の時、太平洋を見に行きました。太平洋は、とても青くきれいな色でした。



次の日、フェニックス自然動物園のサルやゴリラがおもしろく、サボテン園では多くの種類のサボテンがありました。その日は、ホテルに泊まりました。

三日目、青島参拝では、天然記念物の石を拾って帰りました。こどもの国での乗り物は、また乗りたい気持ちです。宮崎科学技術館では色々なことを教えてもらったけれど忘れてしまいました。

帰りの船はすこくゆれて、気持ちが悪くなったので薬を飲みました。なかなか眠れませんでした。楽しい洋上教室だったので、また行きたいです。今度は、家族と行けたらうれしな。

雨の日の ♪♪♪

羽津小六年 和泉佳江

8月7日。そう、四日市まつり。私達音楽クラブはそのパレードに出るために練習に専念していました。今日はその本番の日。あいにくの天気。雨が降ってきました。

出番の二つ前に、私達と同じような短楽器を持った人達が演奏していて、しかも印象づける



かのように長いこと演奏していたので、みんな「あの人達の二つ後なんてついてないね。」と、話していました。そして出番がやってきました。

(おちついて、おちついて)と心の中でみんな、もちろん私も思っていました。そして力いっぱい演奏！大勢のお客さんの前で踊るのやテレビに写っているのは恥ずかしかったけど、終わったときに、拍手がもらえたのでとてもうれしかった、というよりほっとしました。

雨の中で演奏するのはえらいかったです。でも、この体験は、いつまでも心にのこることでしょう。

子供たちの 夏 星空観察

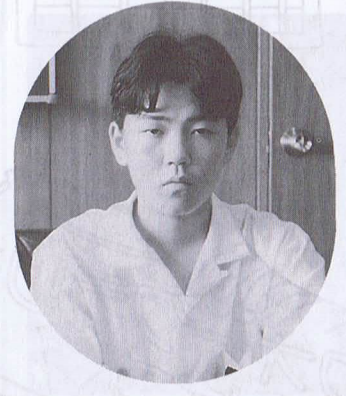
羽津小四年 西村 ちひろ

私は、今年をはじめ、市民センターの星空観察に参加しました。どんな星が見えるかなあと、楽しみにしていました。当日は、お天気もよくてよかったです。

まず、市民センターのスクリーンで、月を見ました。それで、月には、月の海があるということが、はじめわかりました。そして、



本を読んでしめりの海、晴れの海、雨の海があるということもわかりました。とても勉強になりました。望遠鏡で見たのは、月と土



ました。それがどのようなものなのかは、ぼくには分かりませんが、その中の一つに、戦争をなくし、核爆弾を排除しなければならぬのは確かだと思います。



万古焼 ~由来・伝来・そして今~

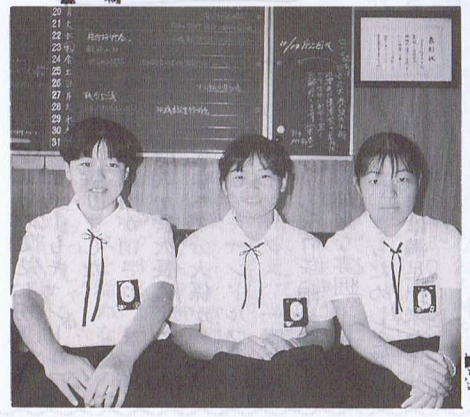
三泗社会科 作品展

本年度で十三回を迎える三泗社会科作品展に羽津中学校からも七点が出品されました。その中の「万古焼・由来・伝来・そして今」を紹介します。

この作品は三年生の浅沼智子さん、工藤千恵子さん、西沢久美子さんの共同研究です。羽津地区の地場産業の万古焼について、身近にありながらもあまり知らないのでもっと深く知りたいということとで夏休みを利用して研究しました。

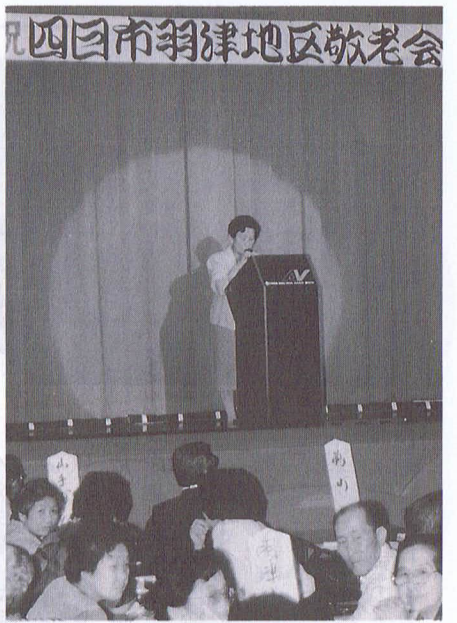
内容は「万古焼の歴史」、地域の二つの万古焼工場を見学して、現在の生産量販売量、円高などの諸問題を幅広く調べています。

研究の結果、西沢久美子さんは工場見学の



中で「窯は生き物だ。毎日同じやり方では同じ物を作ることはできない」という言葉に職人さんの技術を感じ、浅沼智子さんは「うまくできた時やお客さんに喜んでくれた時が一番うれしい」という言葉から職人さんの喜びを感じ、工藤千恵子さんは、万古焼がほとんど海外にも売れて、日本はなんですごく国なんだと思ってもらいたいという感想でした。

地域の産業に関心を持ち、ほこりを持つ子供たちが郷土研究を通して育ててきています。



「きんさん」「ぎんさん」二人のかわいいゴールドミスは、日本中の若者に生きることの楽しさ素晴らしさを与えてくれたような気がします。

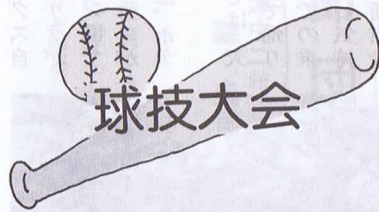
9月15日の羽津地区敬老会には「きんさん」「ぎんさん」に負けないパワフルな268名の方々にご参加頂きました。

お湯につかりながら昔話に花が咲き、芸達者なノドを披露してもらいました。そんな皆さんの元気な姿に、来年も会えますようにと祈りつつ、お世話をさせて頂くことの感謝の心をそえたいと思います。

羽津地区の30名の皆様、どうぞいついまでもお達者で。



ま ち の 話 題



当日は、あいにくの雨、台風が接近しつつあるという予報。急ぎよ大きな鍋でご飯を炊き、カレー

キャンプ 青少協

を作り、グループごとに分配。キャンプファイヤーもキャンドルファイヤーに替りました。

体育館の照明が消され、まっ暗に――。聖火が営火長によって点火され分火係へ。分火係が一人ひとりに点火してキャンドルファイヤーのクライマックス。一瞬の静寂。館内がシーンとして雨の降る音だけでとても神聖な雰囲気でした。

後のゲーム、きもだめしと盛り上がり、子供達は満足出来たキャンプのようでした。

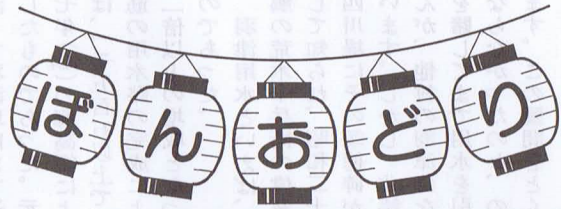


「がんばってー」。大きな声援を受けて、今年も青少協主催の球技大会が八月一日、日曜日の朝早くから開催されました。

今夏は雨の日が多く、十分な練習が出来なかったが、この日は雨も中休みで、曇空の下、皆が精いっぱい活躍してくれました。

年毎に子供会の会員数が減り、ソフトボール、フットボールともに、男女を分けて参加出来るチームが少なくなってきたので、今年はいよいよ多くの子供達が参加出来るように、ドッジボールを種目に取り入れてみました。

日頃、たてのつながりが少ない子供達に、地域の育成者の方々にも協力していただいで、心豊かな子供達の輪を、つくりあげていきたいと願っています。



盆踊り

羽津青年団



かつたけれど、ほとんど例年並みの人があり、特に今年には羽津婦人会の皆さんの浴衣姿が目立ちました、また他地区の青年団の参加もあって結構盛り上がりました。

来年からはさらに趣向をかねて、地区の皆さんに喜んで参加してもらえよう、計画できればと思います。



グラウンドゴルフ用具の貸し出し

さわやかなスポーツの秋。地区社会福祉協議会では、グラウンドゴルフ用具一式を購入しました。

大会を予定していますし、各団体への貸し出しもいたします。連絡先 体育振興会 伊藤米吉 Tel 31-7379 まで



防災訓練

備えあれば 憂いなし 予期せぬ 災害に備え ましょう

訪問インタビュー

大宮町 味香太郎さん

味香太郎さんは、明治三十六年生まれの満九十才。永年、地区の連合自治会長・地区社協会長などの要職に就かれて、私たちの住む羽津地区の発展のため尽力されました。

☆いろいろな要職に就かれましたが……

終戦後の昭和二十三年、大宮町自治会長を引き受け、途中若干の空白期間はありましたが、引き継ぎ昭和五十四年、地区市民センターが完成した年に、連合自治会長に就任、同時に地区社協会長を兼任しました。また、志氏神社の責任総代や、羽津農協組合長も、長期間やってきました。平成元年三月、後進に途を譲り、引退しました。



☆ご自身の生活信条と健康法を

心に持ち方として、安心立命の頭において、つねに神仏を信仰する。すなわち神を敬い、私の教えをきいて、人生に役立てるようになっています。

特にありませんが、これからは若い人たちの力で地域住民のためお互いに協力してやってほしいと思います。

☆今までのお仕事でなかで印象に残ったことは……

地区の行事など、いろいろ思い出はありますが、主なものは、

◎地区内の主要幹線道路で、羽津用水路の暗きよ化による拡幅工

事を持たないようになっています。健康法として睡眠を十分とり、食事は好き嫌いをなく、それに常に体を動かすことを心がけて、早朝三十分くらいウォーキングをするようにしています。「ストレスを溜めないのが一番です」とおっしゃる、とてもステキな味香太郎さんでした。



羽津郷土史研究会

森 元三

四日市／員弁線（通称大矢知街道）の下を流れる羽津用水は、近年の宅地開発の中、その存在さえ忘れられようとしている。

羽津用水は、今から三百年前、羽津も大矢知も桑名藩「松平定重侯」の治世下、元禄五・六年（1692～1693）頃にできたもので、当時大矢知までできていた用水路を延長して、三石塚から久留倍、矢内谷、山畑を掘削、十四川の下を潜って羽津地内まで通水したものであった。元禄七年（1694）の郷高帳によれば、二千五百石以上で、一筋の用水路の完成により二倍以上の増収となったのであった。

羽津用水といえ、北鶴の荒木十兵衛の偉業として知られ、昭和二十八年には十四川堤にその頌徳碑が建てられています。しかし、北鶴の十兵衛さんが、他村の羽津になぜ生命財産を賭してまで用水を引かなければならなかったのか、の疑問が残ります。この疑問をとくため、碑文



志氏神社に一枚の棟札が残って

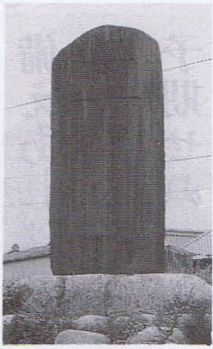
の起草者、青木谷照恩寺住職佐久間義圓師を訪ね、意見を聞きまし。師によれば、古文書の中から発見した「十兵衛起こし」の地名にヒントを得て、昭和十一・二年頃、勢州毎日新聞へ、荒木十兵衛を主人公にした「小説羽津用水」を発表したとのことです。この小説が実録としてひとり歩きをはじめ、羽津用水物語となったものと思われま。

とされます。当時、桑名藩主松平定重は、朝明郡代野村増右衛門をして、領内の開発を盛んに行ない、河川改修や農地の開発、神社仏閣の修理造営を行っています。ところが、宝永七年（1710）野村増右衛門は、疑獄事件の首謀者として、一族四十四人を始め、関係者三百七十余人が死刑、追放されるという大事件があり、野村という名は世の中から抹殺されたのでした。詮議からもれた志氏神社屋根裏の棟札一枚が、わずかにその歴史の一部を語っているのではないだろうか。

羽津用水の完成者が、荒木十兵衛か野村増右衛門かさらに研究を深めなければなりません。現在用水の大部分は暗渠となっていて道路下に埋もれてしまい、用水の下水道化に心を痛める次第ですが、先人の汗による用水完成によって、今日の羽津の発展がもたらされたのであり、先人の偉業に感謝することを忘れてはならないでしょう。

（おわり）

います。宝永四年（1707）、庄屋岩田甚兵衛以下庄屋五名と惣氏子による神社修理のときのもので、そこに代官野村仁右衛門の名がみられます。彼は当時の郡代「野村増右衛門」の弟であり、増右衛門こそ羽津用水の責任者ではなかったか



はづのクル介のサー紹介

詩吟は漢詩や和歌を大きな声で読んで、詠うことです。

岳仁会 詩吟

難しいことはありません。まず声を出してみてください。三ヶ月であなたもビックリするほど声が出るようになります。半年もすれば詩吟の素晴らしいさを実感します。

なによりも詩吟の魅力は、おなかの底から声を出すことで、ストレス解消、健康増進につながります。詩に親しみ、老若男女どなたでも楽しんでいただけます。初心者の方も丁寧に指導していただけます。ぜひこの機会にお始め下さい。お待ちしております。

サークルグループ名	例会日	時間	場所
(岳仁会) 志氏支部	第1・3(火)	19:00	図書室
	第2・4(水)	~21:00	羽津会館
(岳仁会) 金場支部	第1・3(土)	10:00	図書室
	第2	~12:00	羽津会館



編集後記

長雨にたたられた今年の夏。それに地震や台風の被害、冷夏による稲の不作。自然の力の大きさに人の無力を感じます。しかし、晴れたった秋空のもと、運動会でおこる子どもたちの歓声に、力強さがわきあがってきます。誌面を通じ、羽津の活力をお届けします。

編集委員

- 山本 鉄男・田中 逸夫
 - 内田 節子・井上キヨ子
 - 森 博司・藤井 裕通
 - 竹内佐知子・藤森 和代
 - 福井 令子・一海加代子
- 羽津地区市民センター